

第5回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

1 開催日時

令和8年3月25日（水） 午後2時から午後3時10分まで

2 開催場所

津島市役所3階 市長公室

3 出席者

別紙「第5回津島市巡回バス検討委員会出席者名簿」のとおり

4 議事

- (1) ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験結果
- (2) ふれあいバスの見直し案

5 会議資料

- ・資料1 通勤・通学対応実証実験結果について
- ・資料2-1 ふれあいバスの見直し（案）まとめ
- ・資料2-2 ふれあいバスの見直し案 変更内容まとめ
- ・資料2-3 津島市巡回バス「ふれあいバス」ルート図
- ・資料2-4 Aコース ルート図（案）
- ・資料2-5 Aコース 停留所変更内容
- ・資料2-6 Bコース ルート図（案）
- ・資料2-7 Bコース 停留所変更内容
- ・資料2-8 Cコース ルート図（案）
- ・資料2-9 Cコース 停留所変更内容
- ・資料2-10 Dコース ルート図（案）
- ・資料2-11 Dコース 停留所変更内容
- ・資料2-12 各コースのダイヤ（案）

6 あいさつ

(1) 会長

- ・お集まりいただきお礼申し上げます。委員会も大詰めを迎えている。本日も、委員の皆様方のご意見をいただきながら、より良い形に進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(2) 磯部教授

- ・いい成果をもたらせるよう、真剣な議論を期待している。よろしくお願ひしたい。

7 議題

(1) ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験結果

【事務局】

《資料1をもとに説明》

【会長】

- ・今回、実証実験の実施期間が非常に短かったことと、おそらく利用者側からすると突如始まったことで、迷っている間に終わってしまったと思う。また、利用しようと思っても、すでに別の定期券を買っているなど、通勤・通学手段がすでに決まっている中での、わずかな期間での実験だったため、利用者も少なかつたのではないかと思う。そのため、1年間という長いスパンで見たほうがよかつたのではないか、という反省があると思う。

【委員】

- ・津島東高校の評議員をしているが、先日、校長先生と教頭先生に話を伺ったところ、8時15分着のバスがあると利用しやすいと言っていた。高校に到着するのが20分頃だと、あまりにギリギリで生徒は使いづらかつたのではないか、という話を聞いた。

【事務局】

- ・8時16分に津島東高校に到着するバスがあつたが、走行距離が長いことと、道が混むことが多くて、遅延が発生し、津島東高校には、実際には8時20分頃に到着していた。アンケートでも同様のご意見があつた。朝早い時間帯に走らせると遅延の問題があるということが、今回わかつた。

【委員】

- ・津島駅～老松住宅線は乗れなかつたが、青塚駅～永和駅線に1回乗ることができた。永和駅まで行って折り返して1周してみたが、今話にあつたように、青塚駅～永和駅線は距離が長かつた。
- ・みどり台からは学生が1人乗ってきて、挨拶もしてくれて嬉しかつた。
- ・永和駅周辺は朝の時間帯は車が多く混んでいて、かなり時間がかかることがわかつた。
- ・永和駅で折り返す際は、一度バスから降りて、バスが閉まって、その後再度乗る形でやっていたため、運転手とも少し話ができてよかつた。
- ・朝、こどもの見守りをやっているときバスが通ると、こどもたちも手を振ったり、バスに毎回乗っている人を見たりして、バスの状況がみえてよかつた。
- ・先ほど話にあつた津島東高校の時間は、私も感じた。
- ・今回はいい経験になつた。

【事務局】

- ・津島高校の先生とは情報共有しながら進めたが、津島高校の先生からも、年度途中に開始すると、今までの通学方法を変えてまで乗る学生は少ない、年度初めから1年間実施すると、もう少し結果は変わったかもしれない、との話もあった。この結果も今後の検討材料にしたいと思う。

【委員】

- ・津島駅～老松住宅線の7時40分発の便で、西地域防災コミュニティセンターで34人が降りているが、どんな人が利用したかわかるか。

【事務局】

- ・想像だが、名古屋で夜働いて、津島駅から西地域防災コミュニティセンターまで乗車し、帰宅した方の可能性が考えられる。

【委員】

- ・寿町での利用者も、同じような方か。

【事務局】

- ・何を目的に利用したかはアンケートで聞いていないので、寿町での利用者がどういう方かはわからないが、西地域防災コミュニティセンター、寿町ともに、同じ人が複数回利用したと思われる。

【アドバイザー磯部教授】

- ・期間が短いのは、予算の問題で難しかったのだと思う。
- ・広報は難しい。市民全体にお知らせしても、自分に関係ないと思っていると読み飛ばしてしまうので、関係のありそうな人にターゲットを絞って広報することが必要だと思う。
- ・継続性を考えるとしたら、お金をどうやって集めるかが一番問題になる。市の財政負担でできないならば、本当に必要なら、利用者みんなでお金を集める、バスを借りるなどすればよい。そういうのに繋がるとよい。
- ・朝は通勤者や配達車など様々な車が動くので、交通渋滞が発生しやすく、ダイヤの作り方が難しい。ふれあいバスが永和駅に乗り入れる際も、踏切を渡るのか、渡らないのかで相当議論してルートを決めた。
- ・実験をやって終わりではなく、今後どうしていくかのきっかけにしてほしい。

(2) ふれあいバスの見直し案

【事務局】

《資料2-1～2-12をもとに説明》

【委員】

- ・運行日はこれまでどおり月～土曜日か。乗継券は今後も発行するのか。

【事務局】

- ・これまでどおり月～土曜日の運行で、乗継券も発行する。

【委員】

- ・ある人から、神守支所でパーク&ライドができるとよいとの話を聞いた。バスが支所の敷地内に入り、道路ではなく支所の中で乗り降りできると、より安全で、そこに自転車置き場などがあると、車を利用しない人も利用しやすいという意見があった。
- ・また、青塚駅南口停留所周辺は人通りが多く、バス停として利用しづらいので、あおつか憩の家で乗降できると安全で使いやすいという意見もあった。

【事務局】

- ・あおつか憩の家で乗り降りできないか、実際に現場を見に行ったが、青塚駅に行けば行くほど道路が狭くなっており、名鉄バスとも相談した結果、あおつか憩の家近くまでバスが入れないため、現在の停留所を最寄りとしざるを得なかった。
- ・パーク&ライドについては、すでに研究中で、ご意見として承る。

【アドバイザー磯部教授】

- ・両回り運行は大きな話で、停留所もそれぞれの停留所が必要になるので、混乱のないようにしていただきたい。
- ・両回り合わせての増便だが、片方だけ見てしまって、便数が減ったと思う人がいると思う。両回りになるので、どう行ってどう帰ってくるか、行き帰りの使い方を工夫してもらう必要がある。今までは一方通行だったため、苦労して行き帰りしていたのが、反対回りをうまく活用すると、行き帰りの利便性がもっと上がるように見直したことを、よく市民に分かってもらう必要がある。
- ・運賃の問題はいろいろと難しい。運行経費と運賃収入を比較すると、運賃収入は結構少ない。それならば、運賃を取らなくてもいいのではないかと、という意見もあるが、無料だとバスを大事にしなくなってしまう。大事にしてもらうためにも、受益者負担の考えからも、運賃はいただいたほうがよい。

- ・運賃に関連して、1回1回払うのは面倒だが、定期券を持っていれば楽に使える、という話も出てくる。定期券の金額は少し安く設定するといった工夫ができると、バスが使いやすくなる。
- ・最近、紙の定期券は作るのも売り場も大変なので、スマホにチケットを表示するデジタルチケットにしていく動きもあるので、定期券を作る際は、デジタルチケットも活用していけるとよい。
- ・今回の見直し内容が今後ずっと固定だというわけではない。継続的に、適宜見直しをやっていかないといけない。

【事務局】

- ・両回り運行によって、同じ名前の停留所が2つできることになるので、かなり混乱が生じると思う。
- ・今でも、停留所の場所についての問い合わせをいただくことがあるが、説明が難しい。それが、同じ停留所が2つできて、なおかつ、場所によっては、2つの停留所を対面に設置できず、少し離れた場所に設置した停留所もあるので、電話で問い合わせがあった際、場所をうまく伝えることがより難しくなっている。
- ・例えば、名古屋市の停留所は「1番乗り口」「2番乗り口」といったように、停留所に番号を付けている。そうすることで、電話をいただいた際、例えば、「2番乗り口の停留所」という伝え方ができるが、番号もつけずに同じ名称だと、その停留所が津島駅方面か、はたまた逆方面かがわからなくなってしまうと思うので、すごく今悩んでいる。
- ・停留所だけでなく、時刻表も悩んでいる。ページ数を多くして冊子にして、ダイヤを細かく書かないといけないと思っている。
- ・この辺は来年1年研究しながら作っていければと思っている。
- ・運賃もかなり迷った。このタイミングで値上げすることも考えたが、まずは皆様にバスを使っていただくことを一番に考えて、100円で進めていこうと思っている。
- ・ただ、今回の見直しで便数が増えるため運行経費も約2倍となるが、両回りにしたけどあまり利用者数が増えないと、税金の無駄遣いになってしまうので、その辺の兼ね合いを実証実験の中で見ていきたい。
- ・実証実験をしていく途中で、100円を200円にするという方策も考えながら進めていきたい。
- ・通勤・通学対応実証実験では、名鉄が提供しているCentXを活用したデジタルの定期券を導入し、各コースで1名ずつご購入いただいた。今回折角使ったので、今回の見直しを進める中で、同じような形で定期券を導入できるとよいと思っている。

- ・ただ、それが1年目にできるかはわからない。まずは運賃が100円なので、今まで通り現金でお支払いいただき、もし2年目で値上げをするなら、そのタイミングで、高齢者に乘っていただきやすくするため、高齢者向けの割引をした定期券等をデジタルチケットで導入するのも1つの案だと考えている。
- ・このように、やりっぱなしではなく、随時見直しを進めながら、まずは実証実験という形で2～3年進めたいと考えている。

【会長】

- ・いろいろ検討していただいて、ここまで来た。これが、市民の足となり、市民に喜んでもらえる、多くの人に利用されるものになるとよい。
- ・このままではなく、よりよい方法があれば、さらに前へ進めてもらいたい。

8 その他

【事務局】

- ・検討委員会の議事録は、委員名簿を含め、津島市公式ホームページに掲載して公表する予定のため、ご承知おきいただきたい。
- ・最後に、会長と磯部教授よりひと言ずつ頂戴したい。

【会長】

- ・最終的に、料金のことはかなり響いてくると思う。税金を使っているので、バスを使わない方、使っている方それぞれから様々な意見があると思う。市民の大切な税金を使った事業なので、今回いろいろ検討していただいたが、さらにもう一步検討していただいて、市民に喜んでもらえるバスになるとよい。
- ・毎回現金で払うよりも、定期券を買って、こういう使い方をすればより便利さが増すといったこともあると思うので、そういった点を工夫してもらえるとよい。
- ・今後ともよろしくお願ひしたい。

【アドバイザー磯部教授】

- ・今回の検討委員会では、委員の発言が積極的で嬉しかった。車中心でバスをあまり使ったことのない委員も多いと思うが、利用者目線での様々な発言があって大変よかった。利用者が使いたいと思うバスになってほしい。
- ・特に高齢者に関して、お出かけする機会を作ってあげることが大事である。バスを使うよう言っても、行くところがないと使わない。お出かけすると元気になって、楽しみも増えていく。そのための道具としてのバスであってほしい。バスだけではなく、お出かけする機会を工夫して作っていただけるとよい。

【事務局】

- ・本日が最後の検討委員会となる。これまで長きにわたりご協議いただき、お礼申し上げます。
- ・通勤・通学対応実証実験は国の地域未来交付金を活用して行っている。あと2年間、交付金を使って色々なことができる。先ほど話のあった、お出かけをする際にこんな使い方ができるといったモデルを作ったり、若い学生を巻き込みながらマップを作ったり、いろんなアイデアを出していきたいと思うので、今後とも注目をしていただければと思う。